



[男女共同参画社会の実現をめざす情報誌]

さんかくウィーク2011

OKAYAMA
2012.1
vol.37

特集

男女共同参画特別企画

防災について話そう! 「今すぐできる防災」

～みんなで話そう 備えよう～

DUO

[デュオ]



岡山市

男女共同参画特別企画

防災について話そう!



出席者の皆さん



徳田 恭子

NPO法人まちづくり推進機構岡山理事、平成17年より「防災」にも力を入れ、防災マップ作りや、非常用持ち出し袋の準備などを通じて、地域防災についての啓発活動を行っている。



横畠 良昭

岡山市消防局防災管理課の課長補佐、岡山市の防災会議、地域防災計画などに深く携わっている。



小谷 雄司

現在は岡山市消防局南消防署予防係主査として勤務、3.11時には中消防署から、岡山市の緊急消防援助隊の第一次派遣隊として宮城県多賀城市に派遣された。

「今すぐできる防災」～みんなで話そう 備えよう～

2011年3月11日に起こった東日本大震災。あまりの被害の甚大さに私たちは言葉を失い、自分に何ができるだろうかと自問する日々ではないでしょうか。9月には、災害が少ないと言われる岡山を台風が直撃し、また、大きな地震が連動して起こる可能性も言われ、防災は切実な課題となっています。災害をなくすことはできなくても、被害を最小限に止めるために、女性も男性も知恵と力を出し合ってどんなことができるのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

今号では、東日本大震災で救助に従事した消防士、岡山市の防災担当者、地域防災の専門家を招き編集委員と座談会を行いました。

災害地でみた地域協力の重要性

編集委員：実際、東日本大震災で救助活動をおこなったそうですが、どういった経緯で現地に向かわれたのですか。

小 谷：震災が起こった翌日12日に消防庁から岡山県を通じて要請があり、緊急消防援助隊として岡山市の第一次派遣隊として38名11台の消防車両で出動、岡山県隊として14本部35車両で被災地に向け出発しました。その後、13日に宮城県総合運動公園に拠点をおいて多賀城市での活動に入りました。

編集委員：救助隊の活動内容とそこで感じられたことをお聞かせ下さい。

小 谷：そうですね。津波によって流された車の中に閉じ込められた人やとり残された人の捜索を行いました。阪神淡路大震災の時も救助隊として行った経験がありますが、その時とは大きく様相が異なっていました。地震よりも津波の強さを感じました。土砂崩れが街を飲み込んだような、台風による災害のように見えました。工業地帯にストックされていた新車も全て流され、道に車が高さ5mくらいまで、何百台と折り重なっていました。道路も5cmくらいへド口が積もっていて、車も進めない状態。道にはところどころに水たまりがありました。また、3月の東北は厳しい寒さで暖房器具や物資も乏しい中での活動は大変なものでした。

編集委員：捜索中に住民の方の様子はどうでしたか？

小 谷：避難指示区域内でしたので、住民の活動の姿はみえることはできませんでしたが、捜索していた地区の中でもまとまりのある所では女性も男性も役割分担を決めて、自主的に所在確認をしてくれていました。新興住宅地では隣近所の人分が分からず、身元確認がむずかかったですね。

編集委員：地域の団結やまとまりは大切ですね。

小 谷：そうですね。日頃から地域での防災訓練や避難所への誘導などしっかり確立されているところは、避難の状況も把握できていたように思われます。



岡山市における災害の傾向と対策

編集委員：防災管理課の仕事を教えてください。

横 畠：主な業務としては、台風等、

災害の発生が予見される場合、水防本部・災害対策本部を設置します。また、市長を会長とする防災会議を開き、地域防災計画を策定したり、総合防災訓練・水防訓練などの訓練や防災講話など防災意識の啓発事業も行っています。更に、危機管理の総合調整や国民保護計画の策定等も行っています。

編集委員：東日本大震災では岡山市としてどのように対応されましたか。

横 畠：岡山市では、消防局や水道局などがすぐに現地入りするなど、今までに様々な人的・物的支援を行っています。

防災管理課では、被災地支援として毛布や非常食などの救援物資の発送や、ボランティアとの連携も行いました。また、岡山市に避難してくる人のために市営住宅の確保や、震災相談窓口も開設しました。支援物資を被災地に輸送する際の高速道路の無料通行証の発行業務も行っています。

編集委員：岡山市に起こりうる災害についてはどのようにお考えですか。

横 畠：今、市民の関心が高いのは、地震と津波です。岡山市で想定される地震は岡山県北の大原断層、四国の中央構造線、津波の心配もある東南海・南海地震の3つですが、最近では、東海・東南海・南海地震の3連動が危惧されており、現在、国でその被害想定を行っています。今後、新たな想定に基づき市の被害想定や津波ハザードマップを見

直していきたいと考えています。身近なものでは、台風の大雨による河川の氾濫、床上・床下浸水や土砂災害があると考えられます。これらについても、洪水ハザードマップなどで情報提供を行っています。更に、ゲリラ豪雨による氾濫などがありますが、これは予想が難しいです。

編集委員：それらの災害についての対応方法等はどのように、どんなメンバーで検討していますか。また、女性はどの程度参加し、男女共同参画の視点は入っていますか。

横 畠：岡山市全体で、災害対応についての役割分担があり、その根本は、地域防災計画になります。これを定めるのが防災会議で、メンバー50名のうち女性が40%の20名です。法律による充て職だったり難しいことがありますが、女性の視点は重要です。また、市民としての視点を重視し、地域の代表や市民サイドで活動する人を多く加えるように変更しました。

編集委員：市が発信する防災情報はどのような方法でされていますか。

横 畠：一番は報道です。岡山市から避難勧告などを出す場合は、まず報道機関に情報提供します。テレビ、ラジオの緊急割り込み放送やテロップは岡山市が提供した情報も多いのです。その他、携帯電話向けのエリアメールや、広報車両、インターネットなどがあります。

編集委員：外国人、高齢者、子どもに配慮していることはありますか。

横 畠：大変難しい問題です。外国人には、区役所に外国人向けのパンフレットが配布されています。それだけでは足りないのが、8カ国語に対応するホームページがあります。高齢者、障

害者には、災害時にふれあいセンターに福祉避難所の設置を検討しています。また、子どもへの配慮とすると、ミルクは保存年限・場所などの点で備蓄が難しいので、協定によりお店に販売している物資をいざというときに岡山市に回してもらって「流通備蓄」という考え方をとっています。しかしながら、東日本大震災では、この流通備蓄の問題点が明らかになりましたので、備蓄計画全体を見直したいと思っています。

自主防災活動のすすめ

編集委員：今までされてきた活動の紹介をお願いします。

徳 田：「NPO法人まちづくり推進機構岡山」が平成16年に設立されました。岡山県内全域で「協働」の視点に基づいたまちづくりの活動をしています。そして平成17年からは防災にも力を入れて取り組んでいます。倉敷市、津山市などから「地域住民の防災を」との声があり「防災マップ」をはじめ「ワークショップ」などをしながら地域の自主防災活動のお手伝いを続けてきました。

編集委員：防災で私たち自身がやるべきことは何ですか？

徳 田：今回の東日本大震災などのように、昼に地震が起これば家族は離ればなれになっているので、まず「うち



の避難場所はここ」ときちんと決めておくことが大切ではないでしょうか。また、いざという時、助け合うのはご近所の人達同士です。隣にはだれが住んでいてどんな家族構成かということをお互い知っておくことも必要だと思います。そして、今は100円ショップでも色々そろえられる「非常持ち出し袋作り」を公民館等で紹介しています。みなさんがそれぞれ自分にあつた『我が家の非常持ち出し袋』を作ったらいいと思います。

編集委員：地域の中での防災への取り組みはどうしたらいいのでしょうか？

徳 田：岡山市・行政が作るのがハザードマップで、地域住民が自ら作るのが防災マップです。防災マップは避難場所などをはじめ、自分たちの地域に合ったものを作ります。町内の方たちがみんなで「自主防災組織」とか「防災〇〇カ条」なども作り、一緒に話し合い、行動することで「いざという時は、助け合おうね」という意識が芽生えてきます。自助・互助ですね。また、公民館は防災活動でも岡山市と市民との一番近い接点となる施設だと思います。公民館を地域防災を高める拠点にしてほしいなと思います。

編集委員：防災における男女共同参画について感じていることがありますか？

徳 田：阪神大震災や新潟地震の時には避難所でトイレが男女兼用だったり、また、くずる赤ちゃんを抱いたお母さん



防災について話そう! 「今すぐできる防災」 ～みんなで話そう 備えよう～

が一晩中外で過ごさざるをえなかったなどと、たくさんの苦労があったようです。自分の困った経験を女性自ら声をあげていったことが、その後の教訓となり、現場に生かされ改善されていったと聞いています。そして、日頃の自主防災活動では男性はハード面を重視しがちなので、多様な視点から活動できるよう、男女両方で防災組織を作れたらいいと思います。男性も女性も一緒に防災への力を発揮するためには、男女共同参画の視点が絶対に必要だと私は思います。そのためにも、まずは日頃から地域において女性も男性も対等に話し合い、決定し、共に力を出し合っていくことが大切なのではないでしょうか。

自助、共助、公助の視点で 防災を考える

編集委員：小谷さんは、被災地から岡山に戻って自分で改めて考え直したことや、家族と話し合ったことなど自分自身で変わった点はありますか。

小谷：消防士はいかなる場合でも、ひとたび災害が発生すれば、家庭を顧みる事無く災害現場に出動しなければなりません。今回の震災を通して、今一度我が家の災害への備え、私がいなかった時の対処方法を家族で話し合いました。災害の規模が大きくなればなるほど、

「消防車両が現場へ到着できない」等が考えられ、「自分の身は自分で守る」「自分の地域は地域で守る」という自助、共助が重要なポイントになってきます。たとえば私の住まいのある玉野市ですが、台風のたびに被害が出る地域なので、町内で作った防災計画にもとづき、女性も男性も輪番でポンプを監視するなど地区を守ることをしています。

徳田：地域によっては避難所まで3kmもあることもあります。第一避難所を自分たちで登録することは可能ですか。

横畠：「避難」と「避難所に行くこと」が混同されていますが、「避難」とは、難を避けることが重要です。自宅に留まる方が安全な場合は無理して避難所へ行く必要はありません。小中学校の体育館は、主に、自宅で生活できなくなった場合の生活避難場所としての利用を想定しています。例えば、近くの公会堂などがより安全ならそちらに避難していたら、物資の提供等も行いたいと考えています。日頃から自分の地区の状況を把握して、避難について予め考えておく必要があると思います。

徳田：それはもっと広報をされたほうがよいと思います。避難勧告が出たら小学校に行くものとみんな思っていますよ。

横畠：避難勧告も、避難指示もあくまでも「自主避難を促すための情報提

供」ですが、地域防災計画に、もっと市民の視点を入れて広報・啓発活動をしていくことで、市民の皆様が市が提供する情報を正しく理解していただけるようにしていきたいと思っています。

徳田：市民の皆さんも、日頃から近所の方としっかりコミュニケーションをとり、自助、共助の心構えで地域の方と防災マップを作る、家族と非常持ち出し袋を準備するなどの備えを行い、それを行政が公助の部分で応援してほしいと思います。

編集委員：ありがとうございました。「防災」といいますが、実際には災害を防ぐことは出来ないで、日頃から女性も男性も力を出し合って備えることが必要なのですね。そのためには、自助、共助、公助の3つの要素によりバランスよく災害に備えることが大切であるとわかりました。「DUO」ではひとりひとりの備えとして非常持ち出し袋と、公民館での防災に対する取り組みを紹介し



「地域で深めよう防災意識」



地域での取り組み

岡山市内の各地域において、防災に対する取り組みが進められています。岡山市南区の岡南公民館では、「防災マップってなあに?～地域をみつめる」をテーマに、NPO法人まちづくり推進機構岡山の徳田恭子さんを講師に迎えて、地域でつくる防災マップの説明や非常持ち出し袋の展示、ワークショップが行われました。

徳田さんは「地域ごとにつくるきめ細かい防災マップや、家族や近所と日頃からの避難所の確認や話し合いが重要」と話しました。参加者も防災クイズに答えたり、新聞でつくるスリッパ・コップを作り、「避難所まで遠いのが不安」「コーポやマンションの住民の防災は?」など自らの防災についての意見交換を行い、防災について知識を高めました。地域における自主防災組織の充実や自らの防災に対する意識が、災害に備える一つのとりでとなることを認識できた講座でした。

岡山市の防災についての問い合わせ先

防災管理課(岡山市役所本庁舎内) TEL 086-803-1082
ホームページ ● <http://www.city.okayama.jp/soumu/bousai/index.html>

「非常持ち出し袋を準備しませんか?」

編集委員で非常持ち出し袋(1次持ち出し品)を作ってみました。100円ショップや大型量販店などで実際に買える物ばかりです。「備えあれば憂いなし!」いざというときののためにあなたも準備しましょう。

※1次持ち出し品とは、避難時に役立つ、必要最低限の備えで、被災時・非常時の最初の1日間をしのぐための物品です。

非常持ち出し品リスト

1次持ち出し品リスト

■ 非常持ち出し袋の内容

- 乾パン 1袋
- ペットボトル入り飲料水(500ml) 3本
- 懐中電灯(予備電池含む) 1個
- ローソク 2本
- ライター 1個
- 携帯ラジオ(予備電池含む) 1台
- はさみ 1個
- 複合ツール(缶切り、栓抜き等) 1個
- 軍手・手袋 1対
- ロープ 1本
- 救急袋 1袋
- 毛抜き 1本
- 消毒薬 1本
- 脱脂綿 30枚
- ガーゼ 1枚
- ばんそうこう 30枚
- 包帯 1巻
- 三角巾 1枚
- マスク 2枚
- 常備薬・持病薬 適用量
- レジャーシート 1枚
- 簡易防寒シート 1枚
- 簡易トイレ 1回分
- タオル 2枚
- トイレットペーパー 1ロール
- ウエットティッシュ 1個
- 現金(10円玉) 約25枚
- ガムテープ(布製) 1個
- 油性マジック(太) 1本
- 筆記用具 1セット
- 密封用袋 適用量
- 小分け用ポーチ 1枚
- ポリ袋大・小 5枚

編集委員が作った非常持ち出し袋を2種類(基本品目、追加品目)さんかく岡山に置いてあります。ぜひご覧ください。
さんかく岡山 7ページのMAP参照



現金・車や家の予備鍵・預金通帳や身分を証明できるものなど、貴重品もすぐに持ち出せるよう準備しておくで安心です。

+ あると便利なもの

- ・生理用品(女性)
- ・鏡
- ・ブラシ
- ・おりものシート(女性)(下着の代用としても重宝する。)
- ・化粧品
- ・汗ふきシート
- ・洗顔用シート
- ・エコバッグ等(中身が見えない袋)



乾燥対策や、ほこり対策にも役立ちます。

- これらの品は「非常持ち出し袋」に入れ、いざというときにすばやく持ち出せる所に置きましょう。
- 「1次持ち出し品」とともに、避難時に身につける「防寒具・雨具」「はきもの」も備えましょう。
- 水、乾パン等消費期限の点検が大切です。
- 消費期限が3年から5年程度ある専用の非常食もありますが、一般的な乾パンを消費期限の管理をしっかりとしながら貯える方法もあります。それぞれの事情にあった持ち出し袋を作ってみましょう。

その他にも...

●要介護者用品(障害者手帳、持病薬...他)や乳幼児・妊婦用品(紙おむつ、粉ミルク、母子手帳...他)など、個人や家庭の事情にあわせ、上記リストに加えて備えを調整する必要があります。

実際に背負ってみました

今回は1日分の1次持ち出し品の非常持ち出し袋なので5kg前後におさまりました。



編集委員おすすめアイテム

- ブザー付きライト ... 夜の外出や防犯のため

まとめ

DUO編集委員からの提案は「一人一袋」です。ひとりひとり災害への備えをしませんか。また、今回は、1次持ち出し品の非常持ち出し袋を作りましたが、避難した後で少し余裕がでてから安全を確認して自宅へ戻り、避難所へ持ち出したり、または自宅で避難生活を送る上で必要な2次持ち出し品の備蓄も必要です。救援物資が届くまでの3日間程度、しのぐための分量を備えましょう。
市や県のホームページ、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」のホームページにも様々な情報が提供されています。

岡山市男女共同参画推進週間 6月21日～6月27日

さんかくウイーク2011

さんかく満開 笑顔いっぱい

岡山市男女共同参画推進週間（さんかくウイーク）は、男女共同参画社会の実現に向け、市民のみなさんに男女共同参画社会への理解を深めていただくための様々な取組を行います。今回も、6月21日から27日のさんかくウイークと、その前後一週間（プレウイーク・フォローウイーク）に、さまざまなイベントを行いました。

6/27 記念イベント／市民文化ホール
講演：アメリカが見えると世界が見える～性差を超えて新しい未来を～
講師：堤 末果さん（ジャーナリスト）



プレウイーク
6月14日
～6月20日
フォローウイーク
6月28日
～7月4日



最優秀イラスト
テーマに沿って描かれた
講演愛さんの作品です。

男女共同参画がめざす、どんな立場の人でも幸せに生きられる社会とは、私たち自身に選択肢があり、自分の意思で様々な生き方を選べることではないだろうか。メディア、マスコミから与えられる情報を鵜呑みにせず、私たち自身が関心をもち、情報を自分でつかんで選んでいくことが大切であると話されました。

男女共同参画社会の形成の促進に関する事業者表彰

雇用の分野における男女共同参画社会の形成に関する取組の普及を図るため、当該取組を積極的に行っている2事業者を表彰しました。

株式会社エスペランサ

女性の幅広い職場での活躍・登用について、社内全体で取り組み、また、社内保育所を運営する等、女性労働者の能力発揮を促進し、その活用を図る積極的な取組として高く評価される。



橋本歯科医院

仕事と家事・育児の両立を支援するため、柔軟な働き方ができる職場環境づくりに配慮し、産後休暇及び育児休業を取得した従業員は職場復帰しており、女性の能力発揮を促進する積極的な取組として高く評価される。



さんかく岡山登録団体やさんかくウイーク2011実行委員会が企画した事業



「さんかく満開 笑顔いっぱい」のテーマで募集した、さんかくウイーク2011のポスターイラスト最優秀賞に、賞状と副賞を授与しました。



6/18
歴史から学ぶ女と男
～女たちと戦国武将～

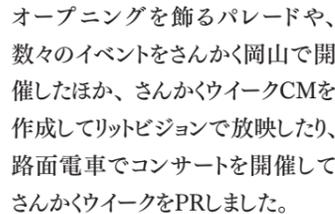


6/25
老い支度なせ必要
～女性が老後に直面しやすい問題とは～



7/2
変わるお葬式、消えるお墓
～性役割と多様性の視点から～

オープニングセレモニー・パレード&イベント・PR活動



オープニングを飾るパレードや、数々のイベントをさんかく岡山で開催したほか、さんかくウイークCMを作成してリットビジョンで放映したり、路面電車でコンサートを開催してさんかくウイークをPRしました。

公民館での行事

期間中、市内のすべての公民館で、男女共同参画に関する講座を開催しました。



男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

男女共同参画的 学問のすすめ!

学習・啓発



●さまざまな主催講座を開催

・女性の自立を支援する講座

転勤族ママ、外国人ママ、シングルママ、就活中ママ…いろんなママたちの活動支援とネットワークづくりを応援します。また生涯を通じた働く女性の健康とキャリアアップに向けたセミナーを開催します。すべての年代の女性たちがいきいきと輝きながら社会を支えるオトナの自立を目指します! 託児室あり(定員あり・要予約・有料)

・企業向けゼミナール

経済団体・大学・他の行政機関などとの連携により、企業で働くさまざまな立場の人に向けて、喫緊の課題をテーマにした講座を随時開催し、中立・公平な社会制度を考えます。

毎月1回、シアター開催 無料
男女共同参画の視点で選んだ多彩な映画を上映します。

人材育成



●男女共同参画大学「さんかくカレッジ」

・さんかくカレッジ基礎コース（4回連続講座を市内4公民館で実施）

地域の活動に役立てていただけるよう、男女共同参画に関する基礎的な講座を、公民館と共催で実施しています。講座のテーマは高齢者向け、子育て世代向け、女性の生き方、など、各地域の特性やニーズに応じて工夫しています。

・さんかくカレッジ専門コース（13回連続講座）

男女共同参画に関する知識をさらに深め、活動につなげていくための講座です。その時々的重要な課題をテーマとし、具体的に男女共同参画を推進するための方法を学びます。

情報提供

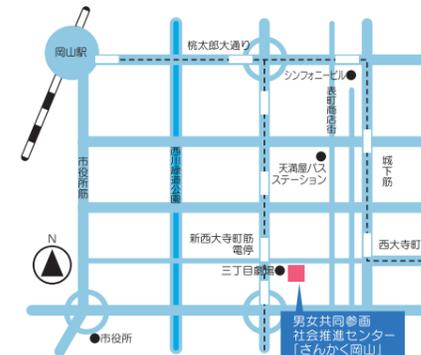


新聞記事の館内掲示

山陽新聞・朝日新聞・産経新聞・日本経済新聞の記事の中から男女共同参画の視点に立った記事だけを取り上げ、館内掲示板で紹介しています。

貸し出し図書

「さんかく岡山」ホームページと岡山市の広報紙「市民のひろば おかやま」にて情報発信しています。



男女共同参画相談支援センター(さんかく岡山内)

家族関係や生き方で悩んでいる方や、DV・セクハラ被害を受けた方の相談を受け、問題解決へ向けて支援します。「こんなことを相談してもいいのかな」と一人で抱えこまないで、お気軽にご相談ください。(秘密は固く守ります。)

相談受付時間

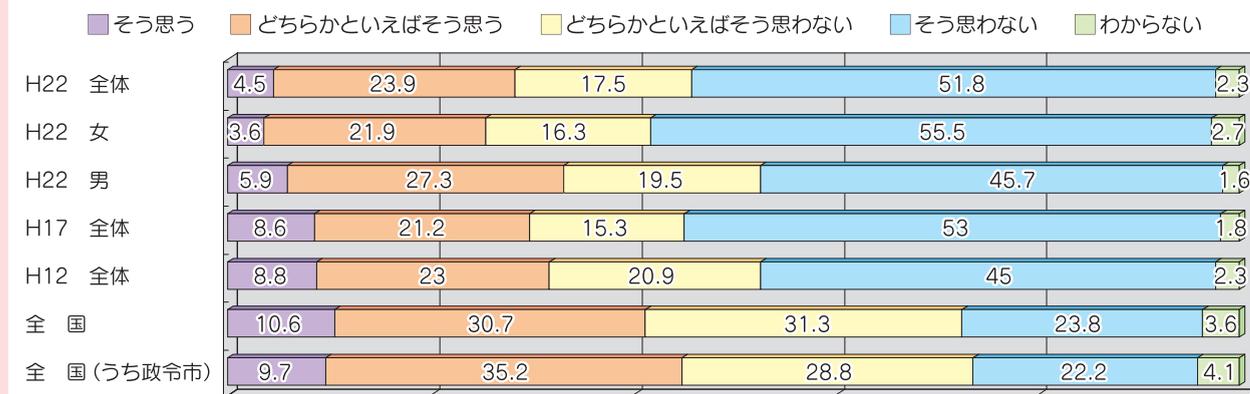
水～月：10時～19時30分
日・祝：10時～16時30分
休業日：火曜・年末年始

★まずはご相談ください★
相談ホットライン ☎086-803-3366

男女共同参画に関する市民意識・実態調査結果より

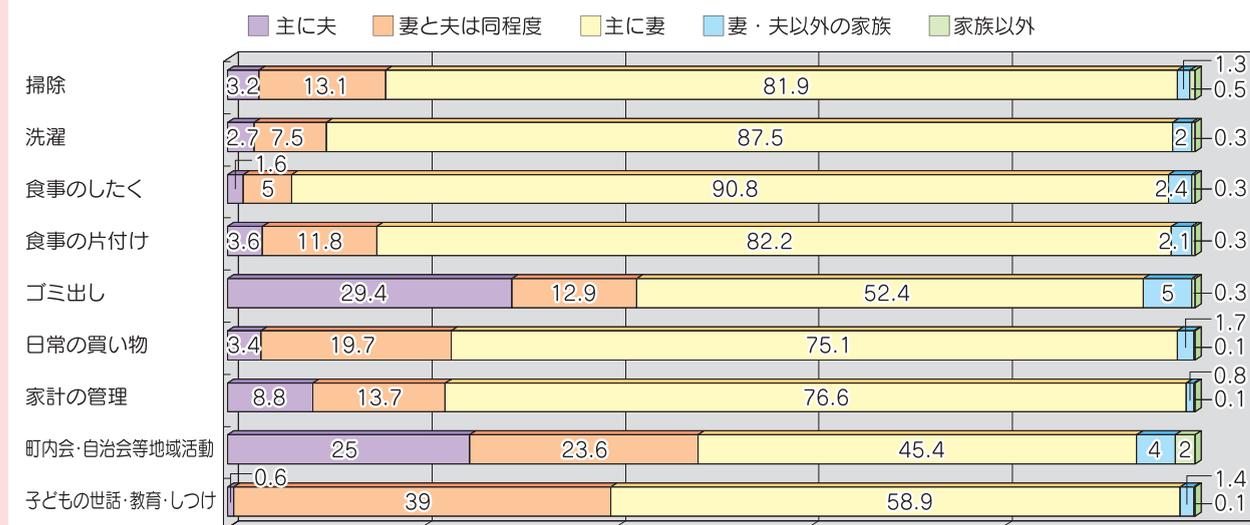
岡山市では平成22年9月に「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」を3,000人の市民を対象に行いました。ここでは、その結果の一部についてご紹介します。

男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ



岡山市では、「男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ」という考え方に否定的な人が増えてきていて、平成12年、平成17年と比較すると、「否定派」は65.9%▶68.3%▶69.3%、「肯定派」は、31.8%▶29.8%▶28.4%と推移しています。平成21年10月に国が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」において、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という調査項目では、「否定派」が55.1%、政令指定都市に限った結果では、51.0%となっています。質問文の文言が少し異なりますが、岡山市の「否定派」の割合は国や政令指定都市の「否定派」と比べるとかなり高いといえます。

「家事分担」の実態について



家庭での主な家事分担について、現在、配偶者・パートナーのいる方にたずねたところ、「主に妻」の割合が高く、「(a) 掃除」、「(b) 洗濯」、「(c) 食事のしたく」、「(d) 食事の片付け」については8割を超えており、女性が担っている割合が高くなっています。「主に夫」の割合をみると、「(e) ゴミ出し」、「(h) 町内会・自治会等地域活動」が比較的高いものの3割以下となっています。「妻と夫は同程度」の割合をみると、「(i) 子どもの世話・教育・しつけ」(39.0%)が最も高く、つぎに「(h) 町内会・自治会等地域活動」(23.6%)となっています。

DUO vol.37

● 編集を終えて ●



編集委員みんなが率直な意見を出しあい、よりよい「DUO」を目指しました。私自身も取材・編集を通して教えられることが数多くありました。個性あふれる編集委員の方との出会いにも感謝！有意義な、そして楽しい2年間でした。
(尾原)



「男だから」「女だから」とあきらめず一人一人の個性を生かした社会が男女共同参画だと思えます。性差に関係なく皆で助けあっていく社会の実現のため、これからも「DUO」が役立つことを期待しています。
(小椋)



災害への備えは、男女関係なく必要でお互いが協力して考えていかなければならない事があります。今回、学ぶ事ができました。わが家でも一人ひとりの非常持ち出し袋を用意したり、避難所を確認し防災意識が高まったと思います。
(日笠)



特集を終えて実感するのは、いざという時あわてないためには日頃の準備や心構えが大切であるということです。岡山に災害は来ないだろう...と思いつまらず、出来ることから始めなくてはいけないと思いました。
(牧)



編集委員で非常持ち出し袋の物を買に行ったその日に東海地方へ引越すことが決まりました。岡山市では縁遠い防災頭巾が、娘の転校先の小学校では必需品でした。「DUO」で調べたり学んだりしたことを活かして、起こる確率の高い東海地震に備えたいです。
(下宮)